



展望と、滑降と、海の幸、山の幸……

北アルプス北方稜線

毛勝三山山スキー

石井

【日時】 2007年4月28日(土)～30日(月)

【メンバー】 石井(L)、田村、高柳、矢野

毛勝三山はかねてから行きたいと思いつつ、二の足を踏んできた山であった。一泊で行くには少々遠いし、GWに行くには例年では少し時期が早い。寡雪で標高の低い所の雪が少なかった今年、林道のアプローチが確実そうだし、チャンス！と思って計画する。片貝山荘をベースに、僧ヶ岳・毛勝山・釜谷山・猫又山をそれぞれピストン、予定通りなら累計標高差は4500mを超える欲張りプランだ。

4月28日 曇時々雨

予報通りというべきか、仮眠した北陸線の無人駅で雨の朝を迎える。春雷も鳴り響き、雨も時折強く振ったり止んだりの、実に不安定な天候なので、迷わず入山は控え、今日はアプローチの林道の偵察と宴会の準備？に充てる。例によって能生の道の駅で魚介類を仕入れ、下道でのんびりと魚津へ向かう。街中では薄日も差していたが、山に近づくにつれて再び雲行きが怪しくなる。南又谷の林道を詰めてみるも、思ったよりも手前で車止めがあり、逆に阿部木谷の方は工事で除雪が入っていたので結構奥まで車が入れた。ということで2日目猫又山、3日目毛勝山に予定変更し、あとは早々に片貝山荘へと入り、部屋を確保する。魚津市教育委員会の管理とはいえ、無料・電気・水道付のこの上ないベースである。風邪気味の石井は宴会準備で残り、田村さん、高柳さんは山菜採り、矢野は獲物を狙いに釣竿を手に沢へと向かう。

俄かに土砂降りとなって矢野が戻ってきたところで宴会スタート。ウドこそなかったが、途中で採ったタラ、コシアブラをはじめ、フキノトウやコゴミといった山の味のテン普拉、おひたしに始まり、ドロエビ、甘エビ、鯛・イナダの刺身、漬け井から鯛の吸い物まで。ビール、酒も進んで早々に撃沈。

4月29日 晴

マジメに宴会した翌朝はマジメに4時起きだ。既に同室の縦走組も支度を始めている。猫又谷へと車を走らせ、時折雪の現れる林道を運動靴で進む。小1時間登ったところでスキーを付け、さらに斜面に付けられた林道を進む。少し登りすぎたので、最後は釜谷出合に向けて灌木のヤブコギとなったので失敗した。それ以降は雪が繋がり、水流は広大なU字谷の下へと隠れていく。左右からのデブリが多少はあるものの、雪面は概ねフラットで歩きやすい。目指す猫又谷右俣のコルまで一直線に見渡せ、斜度・距離とも大したことないように見えるが、これは大きな間違い。右俣よりもやや



急に感じる左俣を分けると傾斜は徐々に増し、体調不良もあって高柳さんが少し遅れる。振り返れば猫又谷が前景の山を隔てて富山平野へと続き、その先に富山湾が見えている。

さらに山頂直下へと続くルンゼを分けると、いよいよ傾斜はきつくなり、シールの限界が近づく。ところがファット板でシールが利くのか、矢野はほぼ直登でガンガン進む。田村さんも負けじとこれに続き、高柳さんも復調してきたようだ。ペースを落としながらも風の舞うコルに降り立つと、後立山の峰々のパノラマが展開し、そして剣岳の眺めが圧巻だ。

緩くなった稜線をシールで辿り、猫又山のピークに立つ。背後の剣は言うに及ばず、黒部川を隔てた白馬連峰、眼下の中谷の斜面も素晴らしい。コルへは少し岩場や細尾根があり、時折スキーを外して慎重に進む。体調のすぐれない田村さんと高柳さんには待ってもらい、矢野と釜谷山を往復する。標高差150mほどなので往復1時間もかからなかったが、ツボで行った石井よりもスキーの矢野の方が正解だった…。

そしてお待ちかねの大滑降。やや急な30度以上の斜面だが、雪も適度に緩んでいるので迷わず矢野が突っ込んでいく。出だしこそ斜度を感じるが、慎重に滑れば全く問題ない状態なので、谷の広がる中間部からは二俣に向けて快適なクルージングだ。750mの標高差は20分で滑り降り、二俣でのんびり余韻に浸りながらビールとかき氷タイム。これだから山スキーはやめられないのだ。

あとは広大なU字谷を右に左にのんびりと流すのみ。行きとは比べ物にならないスピードで釜谷出合まで戻り、少し下流から左手の窪に入り、林道へと登り上げる。今度は順調にルートに乗れたので、雪のついた林道にスキーが走り、早い早い。運動靴デポ地点先からは担ぎとなったが、それでも4時過ぎには車で山荘へと戻り、明るいうちから再び大宴会だ。

帰りに採ってきた山の幸に加え、今日も雪を詰めた保冷バックにデポしておいた海の幸が。テン普拉・おひたしに始まり、ホタルイカの沖漬、甘エビは刺身もさることながら、テン普拉が美味！結局食べきれずにハタハタ干はお持ち帰りに。

4月30日 晴

今日も早く起きて支度、朝から好天。林道除雪終了点から僅かでスキーが使え、最終堰堤を越えていく。既に何パーティーか前後しているが、スキーは少数派。多くはツボ足でのピストンだが、1500mの標高差ゆえ、途中で断念して引き返す人も少なくはないようだ。谷が右に曲がると、猛烈なデブリが一面に谷をふさぎ、スキーでは歩きにくい。しばらくは右に行ったり左に行ったり、登ったり下ったりの状況で、進みが悪く感じられる。谷の側壁に残る雪もまだ一部不安定で、気になるところである。デブリの流れは正面の大明神沢からのようで、毛勝谷は削り取られてモレーンのようになっている。

それゆえ毛勝谷に入ると雪面はだいぶマシになるが、今度は徐々に斜度が出てきて

足の運びを鈍らせる。今日も矢野は元気で、斜度をものともせずどんどん先頭を進み、今日は高柳さんも復活していいペースだ。左、右と大きな枝沢を分けると、斜度はいよいよ厳しさを増し、何歩か進んでは止まる状態。おまけに一昨日のものか、パチンコ玉のようなアラレが雪面の下に降り積もり、シールの利きが悪くて仕方がない。差が開き、シールで粘る者、ツボ足になる者、皆それぞれに苦しめられる。特に鞍部の直下、あまりの遅さに自分が嫌になった…。

稜線に出してしまえばピークまでは10分少々、遅ればせながら今日も大展望のピークに到着。昨日登った釜谷山、猫又山を前に、剣と立山が圧倒的だ。元気の有り余っている矢野は、すでに南峰を往復してきたとか。

今日も登りのウサを晴らすべく大滑降だ。出だしの急斜面は雪もそこそこでまずは快適だったが、それもしばらくで重い雪質へと変わり、ターンがしづらい。足もくたびれてきているし、休み休みチビチビと滑っていく。その点矢野は豪快に、物足りないといわんばかりにガンガン攻めの滑りだ。毛勝谷下部は斜度も緩み、雪も潜らなくなって滑りやすい方だが、大明神沢に出たからはどうしようもないデブリで、滑るというよりはデブリを縫うという感じで、しまいには板を外して下の方が早かった。最終堰堤に戻ってくれば、あとはひと滑りで滑降終了、山荘に戻って荷物をまとめる。

帰路は毛勝の山々を眺めながら、春本番となった富山平野を下道ドライブ、途中の入善の温泉に寄り、親不知から白馬、長野を経て帰った。

毛勝はそれほど人も多くなく、どこか野性味の残る味わいのある山という印象だったが、スキーとしては猫又の方が充実し、楽しめたように思う。まだいくつかルートも考えられるので、次の機会を楽しみにしたいと思う。もちろん海の幸の宴会付きで！

【行程】

4月29日 南又谷林道670m (5:40)
 ー釜谷出合 (7:15/35) ー二俣 (8:15/40)
 ー猫又山 (11:35/55) ー釜谷山 (12:55/13:05)
 ー二俣 (13:45/14:10)
 ー南又林道 (15:25)

4月30日 阿部木谷林道915m (5:40)
 ー大明神沢出合 (6:35/50) ー毛勝山 (11:20/40)
 ー阿部木谷林道 (13:30)

【地形図】 1:25000 毛勝山





左上：猫又谷右俣上部より下部を望む（背後は富山平野と日本海）
 右上：猫又山山頂付近より剣岳・立山方面を望む
 右中：猫又山～釜谷山鞍部より猫又谷左俣を滑降する矢野
 右下：毛勝谷上部の苦しい登高
 左下：毛勝谷上部を滑降する。快適だったのは上部のみ、下部は雪が重かった。